

スケールの政治

政治・空間・場所 第9回
第3部 コンテキスト／スケール／言説の政治

スケールの政治

- スケールって何だろう
- それが政治とどのようにかわるのか
- 政治を空間的広がりの中で考える
 - コンテキストにもいろいろなレベル・層・広がりがある

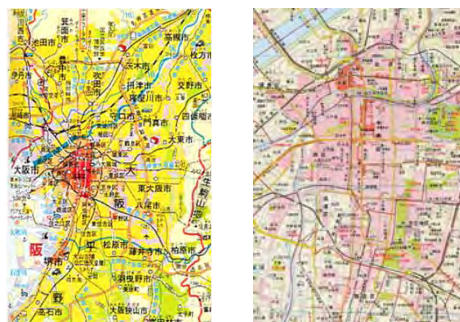
2

色々なスケールのお話

- 地理学における3つの「スケール」
- ① **地図学的スケール** = 縮尺 (地図上の解像度)
- ② **方法論的スケール** = 研究者の視角 (ミクロに見るか、マクロに見るか)
- ③ **地理的スケール** = 空間的広がりとそのような広がりをつくりだす現実の、社会的な**プロセス** (変化の過程)

3

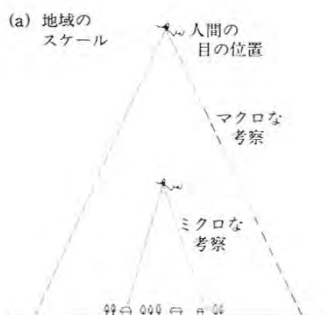
地図学的スケール = 地図における縮尺



小 ← 縮尺 → 大

4

方法論的スケール = 研究者の視角



5

空間的広がりとしてのスケール(1)

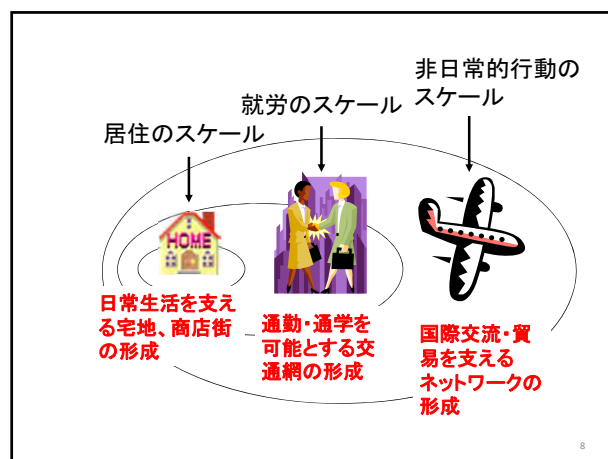
- 地理的スケール
 - 特定の社会的**プロセス**を通して形成される**空間の単位**
- 事例
 - 近代化や資本主義の発展は**社会生活の空間的単位(生活圏)**を小規模なコミュニティから都市、都市圏、さらに国外へと拡大する。

6

空間的広がりとしてのスケール(2)

- 生活圏の拡大を可能にするもの
社会的自由・許容度の増大
可処分所得の増加
交通・通信手段の発達
- 私の生活
貝塚市に**居住**、大阪市を中心に**仕事**をしながら、府外・国外にもしばしば**出張**。

7



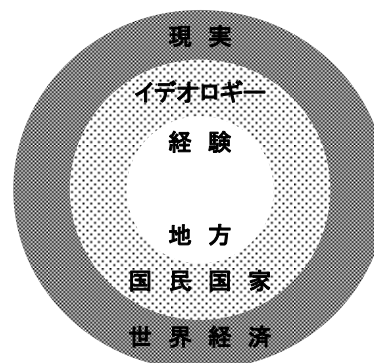
8

地理的スケールの重層性(1)

- 社会の特定の活動(居住、就労、交易など)が維持される空間的広がりが、**階層的・重層的に構成されている**。
- ↓
- 社会はそういう風に**地理的に分化**している。

9

テイラーによる3つの地理的スケール



10

地理的スケールの重層性(2)

- **グローバル・スケール**
資本主義経済が世界大で機能する「**現実**」のスケール
→物事はここから始まる(テイラー)
- **ローカル・スケール**
私たちが日常生活として「**経験**」する局地的なスケール
→「**経験**」は「**現実**」とは異なる(テイラー)

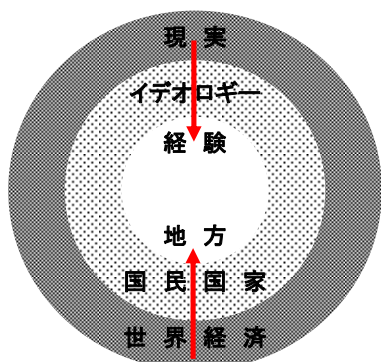
11

地理的スケールの重層性(3)

- **ナショナル・スケール**
二つのスケールの間を媒介する国家の「**イデオロギー**」のスケール
↓
イデオロギー＝社会がどのように機能し、そしてすべきかに関する世界観。しばしば「**現実**」をあいまいにするために用いられる。

12

テイラーによる3つの地理的スケール



13

地理的スケールの重層性(4)

- 国家のイデオロギーとは
 - 国家は社会的まとまりをもつ国民から構成される(国民国家)という考え
 - 単一民族国家幻想(日本?)
 - 国語の絶対化(訛りへの劣等感)
 - 人種主義(〇〇人至上主義)
 - 「国民経済」という想定
- ↓
- 世界経済の「現実」が国家の「イデオロギー」によって歪められ、ローカルな「経験」を構成している事例とは？

14

ヨーロッパにおける極右勢力の台頭



ネオナチ、ドイツ

15

ネオナチのデモ(ドイツ・ドレスデン2001年12月)



16

ロシアのネオナチとフリーガン



17

フランスでの反極右デモ(2002年5月)

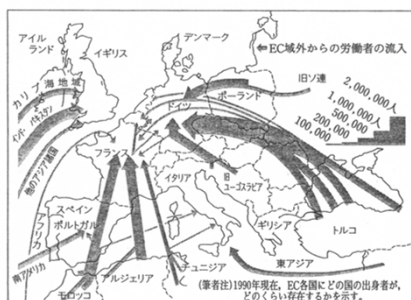


18

極右勢力台頭の背景

①ヨーロッパ(EC諸国)の移民政策

図 8-4 EC域外からの労働移動



出所:G.Simon,Vers Europe Communautaire de moins en moins mobile?,
Revue Européenne des Migrations Internationales,vol.7,no.2,1991,p.54.

19

②移民の定住化と文化(イスラム)復興運動 →既存のヨーロッパ文化と摩擦



ベルリン

20

③90年代の高失業率

→ヨーロッパ域外移民の抑制、雇用不安

④1993年にEU(ヨーロッパ連合)が形成

→国家主権の一部がEUに移譲

21

• 結果(外国人排斥、ナショナリズム)

- 「移民が就業機会を奪う」
 - 「自国民優先に雇用政策をとるべき」
 - 「移民が国民文化を破壊している」
 - 「国家を弱体化するEUに反対」(Brexitの一因)
 - 最近では移民・難民とテロの危険性が結び付けられる
- これらのスローガンを唱える集団・政党に支持増加(ドイツ、イギリス、オーストリア、フランス、オランダ、ロシア)

↑

低賃金労働を中心に労働市場に参入していく移民に警戒感と「敵視」(不況下ではパイの奪い合い)

22

日本でも?

- 石原都知事「**三国人**」発言(2000年)
 - 新宿区歌舞伎町での外国人犯罪増加
 - ←東京の世界都市化
- 入湯拒否問題(2001年訴訟に)
 - 小樽市銭湯などでのロシア人の「素行不良」
 - ←ロシアとの(ビザなし)交流
- SARSをめぐる対応(2003年)
 - 中国系外国人の病原菌媒介
 - ←東アジアとの人的交流の深化
- 東京・大阪でのヘイトスピーチとの差異

23

問題を理解する枠組み

- 南北の経済格差にともなう労働力流動
 - グローバルな世界経済の「現実」
- 移民の定着と住民との関係
 - ローカルな「経験」
- 極右勢力による移民の社会的弊害の捉え
 - ナショナルな「イデオロギー」(世界観)

↓

移民の地域社会への流入に対する住民の反応を構成
→場所の政治へ

24

スケールの政治(1)

- 政治に関わる**主体**→活動のスケール
 - 政治主体間の対立
 - 地理的スケールは**封じ込め**にも**エンパワーメント**にもなる
- 「スケールの政治」の例
 - 1980年代イギリスサッチャー政権と労働党主導の大都市圏政府
 - 1960年代後半から70年代初めの日本での「**地方の時代**」(**革新自治体**の全国的増加)

25

スケールの政治(2)

- **スケールのジャンプ**
 - 政治権力を行使する中心的手段
 - 一つの地理的スケールで確立された政治的要求や権力が別のスケールに拡張されること(≒政争の舞台を移す)
 - 労働党大都市圏政府、日本の革新自治体の増加→中央政府に影響(ローカル→ナショナル)
 - 中央政党や保守政党は巻き返し、ローカルな政治基盤を奪還(ナショナル→ローカル)
 - 異なった「スケールの政治」は複雑に並存

26

「大阪維新の会」の活動(1)



- 橋下徹大阪府知事(当時)らが中心となり、2010年4月に結成した政治団体(地域政党)

27

「大阪維新の会」の活動(2)

- 政策=**大阪府域の再編**、「**大阪都**」構想
 - 大阪府を広域自治体として再編・強化し、経済発展を図る
 - **大阪市と堺市(政令指定都市)を廃止し、府との二重行政を解消**、複数の特別自治区からなる大阪都とし、特別自治区が住民自治にもとづく公共サービスを提供する
- 2010年9月現在で大阪府会議員に29名、大阪市の会議員に12名、堺市会議員に7名

28

「大阪維新の会」の活動(3)

- **府から市町村(特に大阪市)へのジャンプ**
- 自民党地方議員を中心に関連自治体議会に議席を増やす
- 橋下知事自ら大阪市長選の出馬を匂わせる
 - 平松大阪市長(民主・労組系支持)と激しく対立
 - 大阪府大を理系中心に再編縮小し、大阪市大との統合を主張
- 府域再編(政令市解体)ありきの制度論が先行←市は**関西州(大都市圏州)**の構想で対抗

29

統一地方選挙の結果(1)

- 大阪府議会議員選挙(2011年4月10日)
 - 109議席中57議席獲得(52.3%、落選3)
 - 62選挙区のうち56区で当選(52区でトップ)
 - 敗戦区=**都島区、西淀川区、旭区**
 - 二位当選区=**東淀川区、生野区、西成区、西区**
 - **府下市町村**では候補を立てなかった寝屋川市と藤井寺市以外で**すべて一位当選**(無投票当選2を含む)

30

統一地方選挙の結果(2)

- 大阪市議会議員選挙(2011年4月10日)
 - 86議席中33議席獲得(38.4%、**落選11**)
 - 24選挙区のうち**西淀川区以外の23区で当選者**
 - 一位当選区=北区、福島区、此花区、西区、港区、天王寺区、浪速区の7区にとどまる
 - **公明党一位当選区(14区)**=大正区、西淀川区、淀川区、東淀川区、東成区、生野区、旭区、城東区、鶴見区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区
 - **公明党は市部で府会議員候補をあまり立てず**

31

統一地方選挙の結果(3)

- 堺市議会議員選挙(2011年4月10日)
 - 52議席中13議席獲得(25%、落選2)=**第一党に**
 - 7選挙区(全て複数区)のうち全てで当選(4区でトップ、3区で1・2位独占)
 - トップをとれなかった**堺区、中区、東区では公明党候補がトップ**
 - 公明党は改選前の第一党、改選後1議席減らし、12議席獲得し第二党に
- なお、2015年の統一地方選挙でも大阪府・市、堺市各議会で維新は過半数に達せず

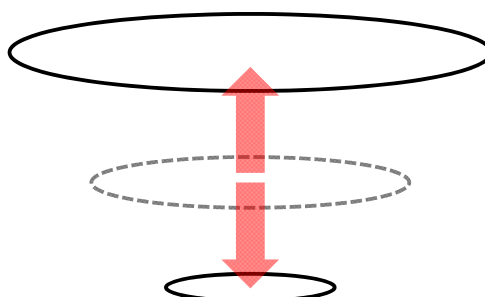
32

「大阪秋の陣」(1)

- 橋下知事は11月に**大阪知事・市長のダブル選挙を実施、市長選出馬・当選**
 - 争点は大阪府市の「二重行政」の弊害、大阪市政の腐敗←背後に既成政党への不信
- グローバル化の中で大阪市は解体(リスケーリング=スケール再編)されるべきなのか?
 - 橋下:大阪市解体による垂直統合
 - 平松:政令市(京阪神)の水平連携

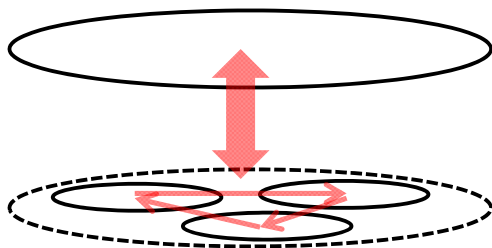
33

垂直的(統合)リスケーリング



34

水平的(連携)リスケーリング



35

「大阪秋の陣」(2)

- 結果
 - ミクロなコンテキストに左右される大阪市内の選挙区選挙(というスケール)でも平松候補を圧倒←**公明党は自主投票に(4割は維新へ)**
 - 知事選も倉田候補の地盤(一種のコンテキスト=池田市)以外で松井候補が勝利
 - 橋下・松井の維新派の支持のスケールは府域大(おそらく全国スケールに)→メディア戦略が空間の摩擦を超えたケース

36

2015年住民投票とダブル選挙

- 2015年5月特別区設置住民投票
 - 大阪市を廃止し、5区に分割して特別区設置
 - 投票率は66.83%、賛成694,844票（得票率49.62%）、反対705,585票（50.38%）
- 11月府知事・市長ダブル選挙
 - 自民系候補に対する維新側の大勝...

37



38

大阪市は廃止されるのか

- 2015年11月のダブル選挙の結果をどう見るか
 - 住民投票の際にみられた「市北部＝賛成」、「市南部＝反対」のパターンは確認されず、西成区（柳本の地盤）を除き維新候補の圧勝
 - 府知事選挙も現職の圧勝
 - つまり維新支持のスケールは依然として府内一円に広がっていると考えられる
 - ただし、投票率はかなり低下。市議会と府議会での大阪維新の党が過半数割れしているので、公明党との連携が不調に終われば、次回統一地方選挙での議席挽回が都構想の実現に必須
 - 特別区住民投票は吉村新市長が任期中に再実施する方針と報道

39

マルチ・スケールのアプローチ

- 地理的スケール
 - 現実の政治的プロセス、イデオロギーや政治意識、そして政治的実践の交錯する場
 - ローカルに発生する問題であっても、それ以外のスケールとどう関わっているか常に考える
 - 研究の視野を柔軟に拡張・推移させる＝政治の舞台は重層的に変動している（フラットではない）
 - 世界というコンテキストの中にローカルな政治を位置づけて考える

40